
FINALMEMORY

竹内

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FINAL MEMORY

【Nコード】

N0383Q

【作者名】

竹内

【あらすじ】

科学と魔法、両方が進化した世界「ファイナルアーツ」
その魔法界側に一人の謎に包まれた少年が現れた
彼の人生はリセットされた
輪廻の如く自らの運命を探し求める旅が始まる――

求めし記憶

その昔ある一人の少年が居た

彼はその雰囲気からか、性格からか、その頭脳からか

”神童”と呼ばれていた――

神童は、過去を捨てた。

探し求め続けた自らの真実。

それを遂に見つけ出した彼は、それまで縛られ続けた過去と決別する道を選んだのだった

「A u r e v o i r」

大切な人が最後に遺した言葉を過去の自分に宛てて。

全ての記憶と己の闇と何もかもを背負い彼は宇宙の闇の中へと還っていった

そして――何年もの月日が経った

彼の全ては消え去り、何もかもが終わったのだ、と彼自身も信じ、望んでいた

しかし――

「……は……どう？」

終わったのではなく、
全ては今始まったのだった

少女とカケラ

その少年は野原に横たわり、頭上には瞬く星空が溢れんばかりに輝いていた

「ここはどこ？」

無愛想な顔をした少年はゆっくりと体を起こした
彼はその後周りを見渡した

彼が横たわっていた場所は随分と高いところで、下をみれば街が広がっていた

街の明かりが目にしみると、そこでやっと彼は気が付いたように空を見上げた

彼は空を仰ぎ、問いかける

「僕は誰なの？」

空からは何も返って来ない

しばらく彼が黙ったまま立っていると、下の方から13、4歳だろ
うか自分と同じぐらいの背丈の女の子が登ってきた

「…あなたは誰？というか何故この場所に居るの？」

不思議そうな顔をしてこちらを見ている
その瞳は怖いほど澄んでいて、純粹そうだ

ただ彼女からの問いに彼は答えることが出来ない
でも、折角話し掛けてくれているのだから、ということで彼はオロ
オロしながら話し始めた

「えっ…僕はその…ここで眠ってたんだ」

「眠ってた…？ここは立入禁止の【追憶の丘】よ」

立入禁止…【追憶の丘】？成程そういわれると周りにきれいな花が
咲いていたり、神々しい雰囲気漂っている気がする

と、彼は感じた

彼は黙っているが彼女の質問は更に数を増していく

「わたしもそれを破ってここに来ているのだけど……そういえばあ
なたみない顔だわ」

「どこの家の人？」

「それに着ている服も変わってるわね…どこで買ったの？」

当然、自分の名も分からぬ少年がこんな問いに答えられるはずはない
彼の精神はどんどん追い込まれていった

月が雲間に光を投げていた

月——光……！……

彼の脳裏に一瞬映像が流れた

同じ場所…しかし丘は太陽光に照らされている
花々が囲む中に一人の男が立っていた

それは自分？

男は手をかざす　すると周りが凍りつきまるで雪景色に……

『待っていたよ』

えっ…？

その声が頭に響いた瞬間、流れていた映像は消えた

同時に現実の彼が頭を抑えて倒れた

「……っ……！！？」

「きゃっ！どうしたの！？大丈夫……」

少年の意識はどんどん遠のいていく
少女の声は届かない

「僕は………」

僕は誰だ

リルカ（前書き）

リルカ

少年はゆっくりと天井を見上げていた
先程まで目の前の景色は星空だったはずなのに、と半ば疑問を抱きながら体を起こす

「目が覚めた？」

「！」

それは少女の…【追憶の丘】で会った彼女の声だった
ここは十中八九、彼女の家だ

「まず、謝っておくわ ごめんなさい」

「…どうして？君が僕を運んでくれたんだろ？」

「私、あなたが眠ってる間に『サイコメモリ記憶閲覧』で記憶を見ようとしてしまったの」

少年は言ってる意味が理解できない
ただその響きを聞いた時、なにか懐かしい感じがした

「『サイコメモリ記憶閲覧』……って何？」

「えっ！？知らないの？」

「親族以外への使用を禁止されてるけど簡単な魔法よ」

「ま…魔法…??」

少年はさらに困惑している

言葉の意味は分かっているが、それ故に「分からない」という感じた

彼女は少しすると、慌ててしゃべり始めた

「あつ…ごめんなさい！そうよ、あなたの記憶を覗こうとしたら何もなかったわ」

「あなた…記憶喪失…よね？」

記憶喪失

改めてその言葉を言われると何故かまた懐かしい感じがする
これは自分の記憶なのだろうか？

「記憶」がどういうものか、どうやら忘れてしまったようだ

「そう…らしいよ」

「……君の名前は？」

？ 予想できない、考えてない言葉が口から放たれた

「私の名前はリルカよ、よろしくね」

「ところでこれからあなたはどこに……あら？」

少女―リルカが少年のほうを見ると少年は窓から出て行った

「……………とにかくこれ以上迷惑をかける訳にはいかない……………！」
「街はあつちかな」

少年は街を目指して走っていった
そっぴえばお礼を言うのを忘れていたけれど…

一方のリルカは少年が出ていき、酷く沈黙した小屋の中に取り残された
―が、

「……………いつてらっしゃい」

彼女は太陽のような微笑みを浮かべ、静かに彼を見送った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0383q/>

FINALMEMORY

2011年1月13日00時26分発行